



生物多様性に関する生活者意識調査

2025年1月実施 WWFジャパン

▼調査概要

調査会社：Questant（株式会社マクロミル）

調査期間：2025年1月17日～18日

調査方法：インターネットによるアンケート調査

調査対象：全国の10～60代男女

有効回答数：551

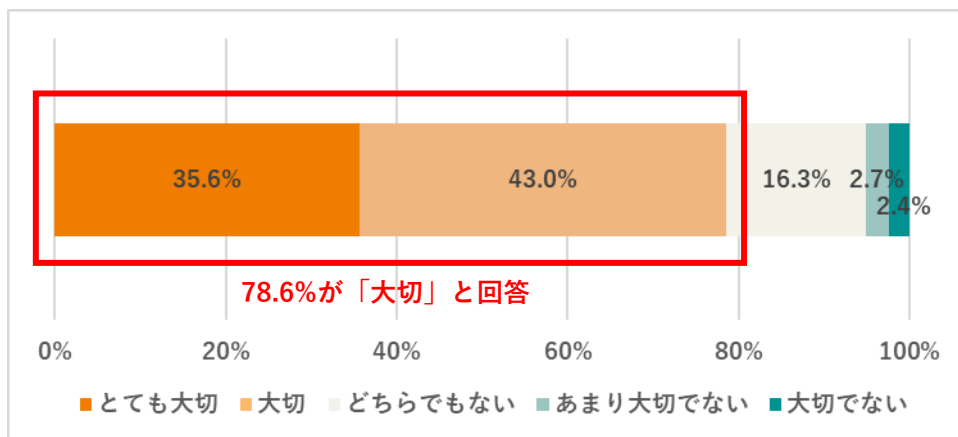
▼調査結果概要

- 回答者の約8割が「生物多様性は大切（78.6%）」と答え、多くの生活者が生物多様性の重要性を認識していることがわかりました。【p.2】
- その一方で、「どう私の生活とつながっているのかわからない（60.8%）」「生物多様性について、人と会話することはほとんどない・一度もない（83.1%）」という回答となり、自分の生活との具体的なつながりの理解が十分に進んでいない現状や、普段の暮らしの中で話題にあがるのが殆どない状況がうかがえました。【p.3】
- 生物多様性とのつながりを実感する場面について記述式で聞いたところ、食や自然、報道や教育といった日常生活での接点を中心に実感するという声が多く聞かれた一方、回答者の半数以上は「わからない」「思いつかない」などと答え、言語化が難しいと感じている生活者が多いこともうかがえました。【p.7-8】
- また、「生物多様性の危機がどのくらい深刻かがわからない」と答えた人は65.6%に上り、危機の深刻さが十分に認知されていないことがわかりました。さらに生物多様性の保全と回復に向けた取り組みについては、「生物多様性を守るために、何をすべきかわからない（74.6%）」「まわりに関心のある人が少ない・一緒に考える人が少ない（78.1%）」といった課題感を感じていることも明らかになりました。【p.4-5】

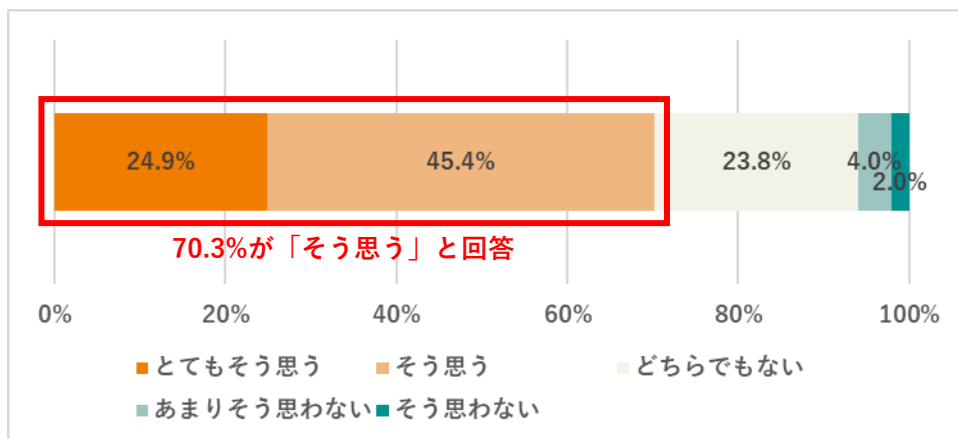
▼調査結果詳細

Q. 地球には、ヒトやゾウ、イネや大腸菌、さまざまなバクテリアまで、数百万種から数千万種もの生物がいるといわれています。これらの生きものはいずれも、ただ一種だけで生きていくことはできません。多様な生きものたちの複雑で壮大な命のつながりを「生物多様性」といいます。

生物多様性は大切だと思いますか？（回答数：551）



Q. 研究によると、過去 50 年間で地球の生物多様性の豊かさが 73%失われ、かつ、取り返しのつかない「転換点」に近づいていることが指摘されています。生物多様性が失われることは、あなたの生活にも悪影響を与えますか？（回答数：551）

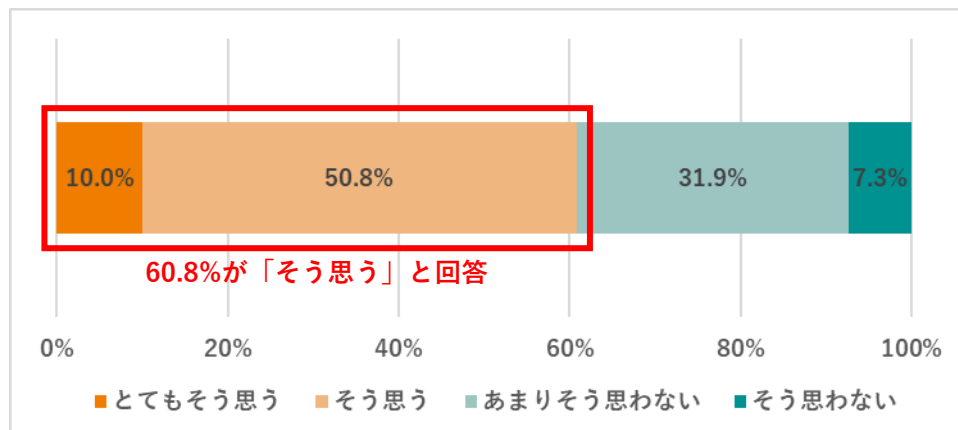


豊かな生物多様性は、食べ物を供給したり（供給サービス）、食べ物が育つための土壌を形成したり（基盤サービス）、大気や水をきれいにしたり（調整サービス）、自然散策などのレクリエーション機会や芸術へのインスピレーションを与えてくれる（文化的サービス）など、私たちの健全な暮らしの基盤となっています。

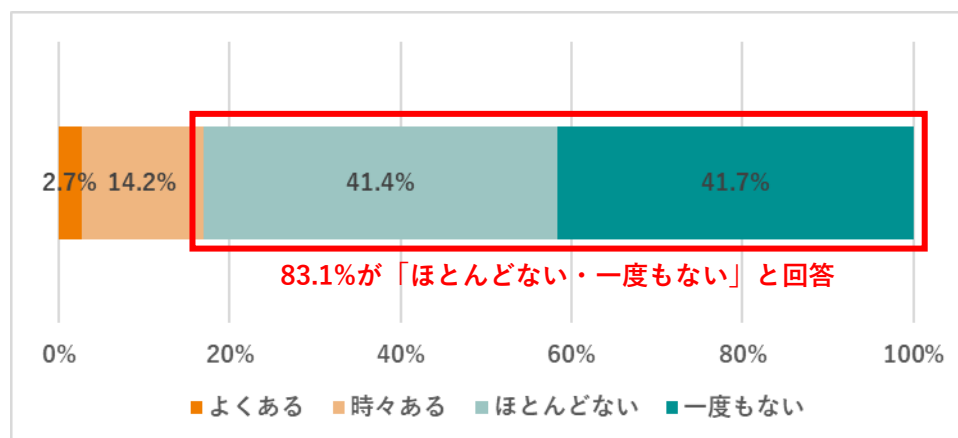
調査では、回答者の約 8 割が「生物多様性は大切（78.6%）」と答え、さらに約 7 割が「生物多様性が失われることは自分の生活にも悪影響を与える（70.3%）」と回答し、多くの生活者が生物多様性の重要性と、その減少によって自分の暮らしにも影響が及ぶことを認識していることがわかりました。

Q. あなたの暮らしと生物多様性とのつながりを考えるとき、以下の項目についてあてはまるものを選んでください。(回答数：551)

どう私の生活とつながっているのかがわからない



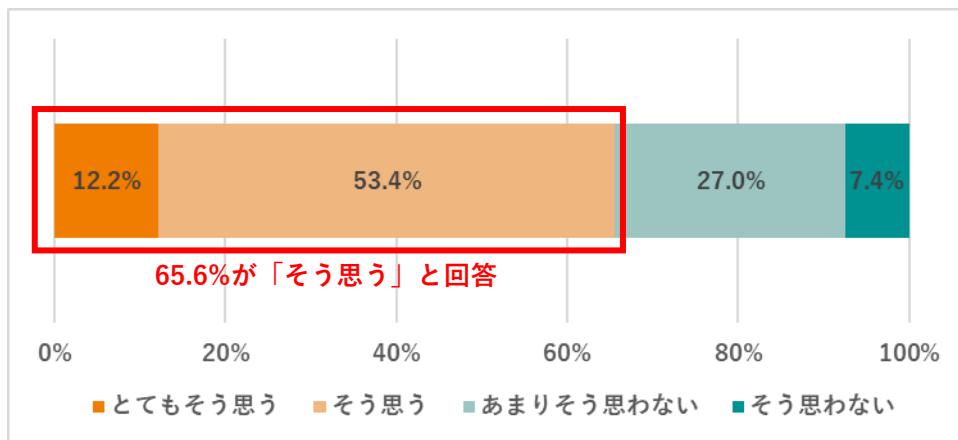
Q. 生物多様性について、人と会話することはありますか？ (回答数：551)



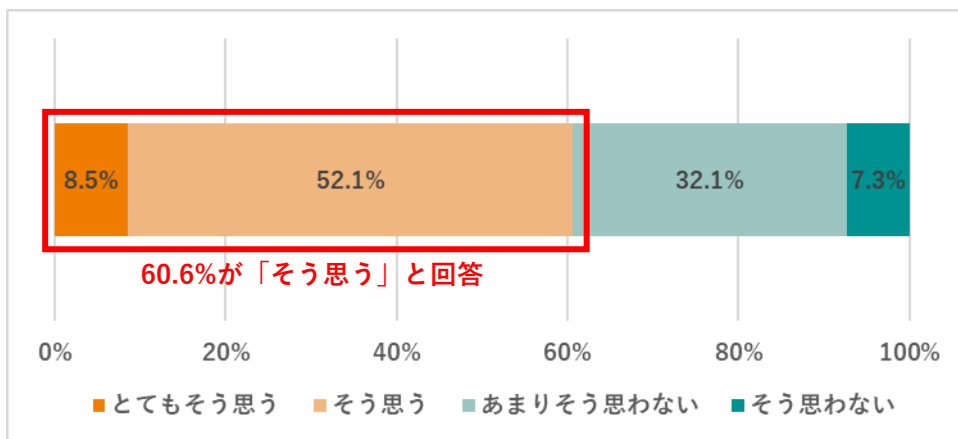
その一方で、「どのように私の生活とつながっているのかがわからない (60.8%)」、「生物多様性について、人と会話することはほとんどない・一度もない (83.1%)」という回答となりました。生活者は生物多様性が大切だと思いつつ、自分の生活との具体的なつながりの理解が十分に進んでいない現状や、普段の暮らしの中で話題にあがることが殆どない状況がうかがえました。

Q. あなたの暮らしと生物多様性とのつながりを考えるとき、以下の項目についてあてはまるものを選んでください。(回答数：551)

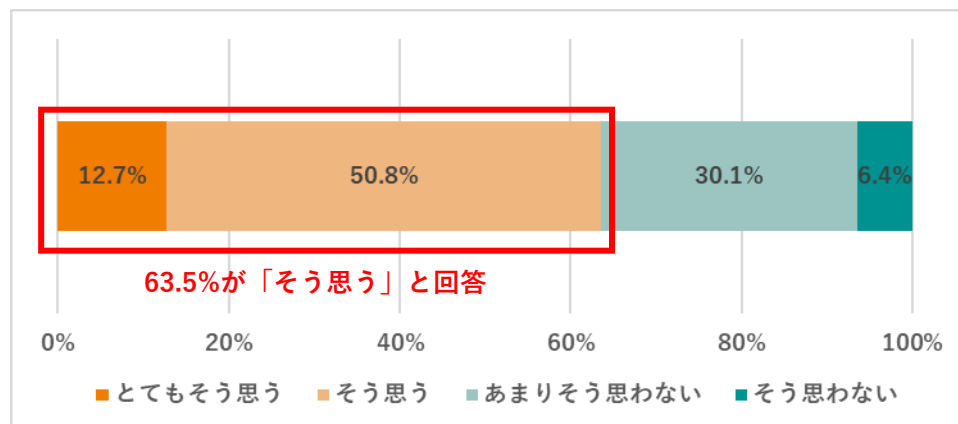
生物多様性の危機がどのくらい深刻かがわからない



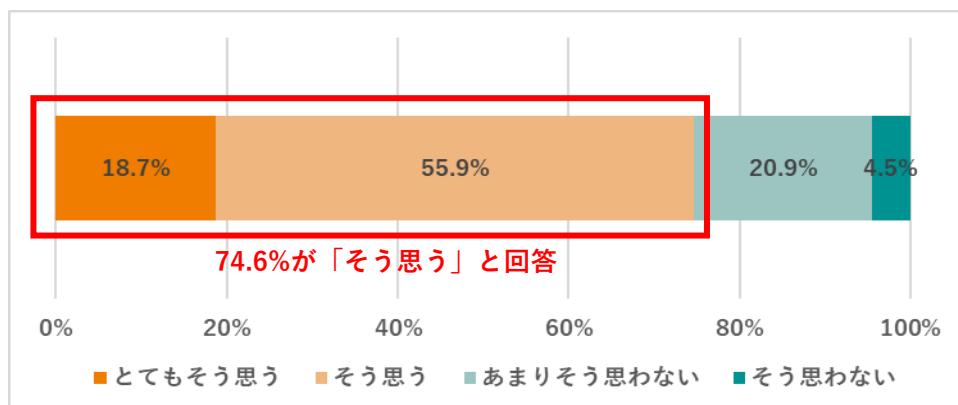
生物多様性を守るための自分の行動で与えられる影響は小さい



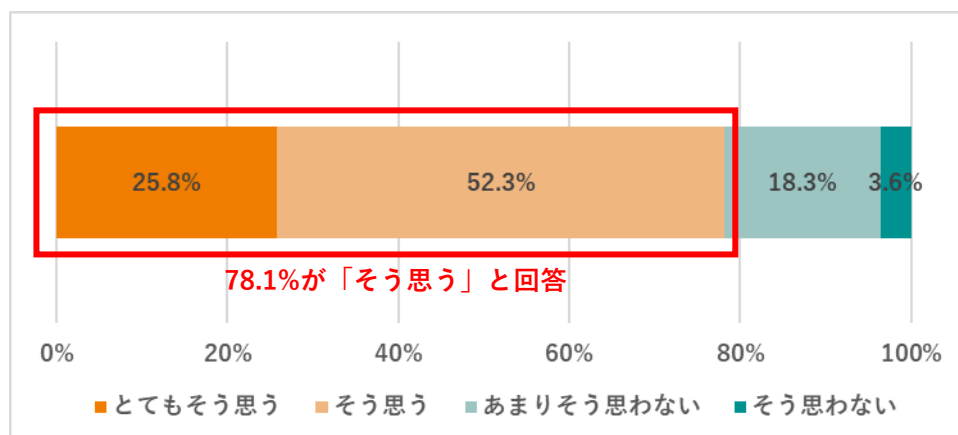
難しそうでなんだかつつきにくい



生物多様性を守るために、何をしたいかわからない



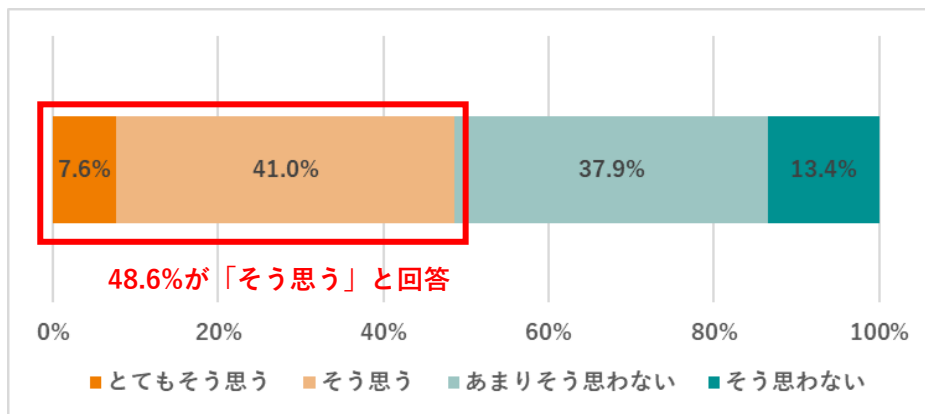
まわりに関心のある人が少ない・一緒に考える人が少ない



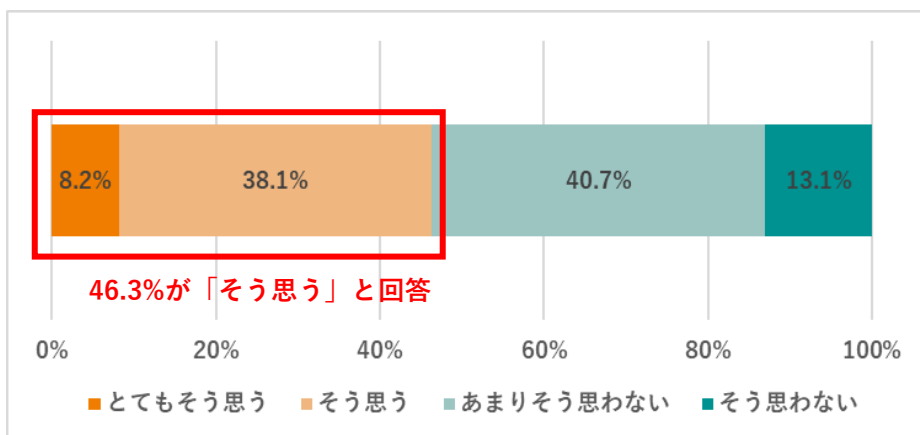
生物多様性の豊かを示す「[生きている地球指数 \(Living Planet Index: LPI\)](#)」は過去 50 年間で約 73%減少し、さらに、後戻りできない危険な転換点に直面しています。その危機には私たち人類の活動が大きく関わっており、生物多様性の保全と回復に向けた取り組みが急務となっています。

しかし、「生物多様性の危機がどのくらい深刻かがわからない」と答えた人は 65.6%に上り、危機の深刻さが十分に認知されていないことがわかりました。また、課題の大きさや複雑さゆえに、「生物多様性を守るための自分の行動で与えられる影響は小さい (60.6%)」「難しそうでなんだかつつきにくい (63.5%)」と捉えている生活者が多いことも見えてきました。さらに、解決に向けては、「生物多様性を守るために、何をしたいかわからない (74.6%)」「まわりに関心のある人が少ない・一緒に考える人が少ない (78.1%)」といった課題感を感じていることも明らかになりました。

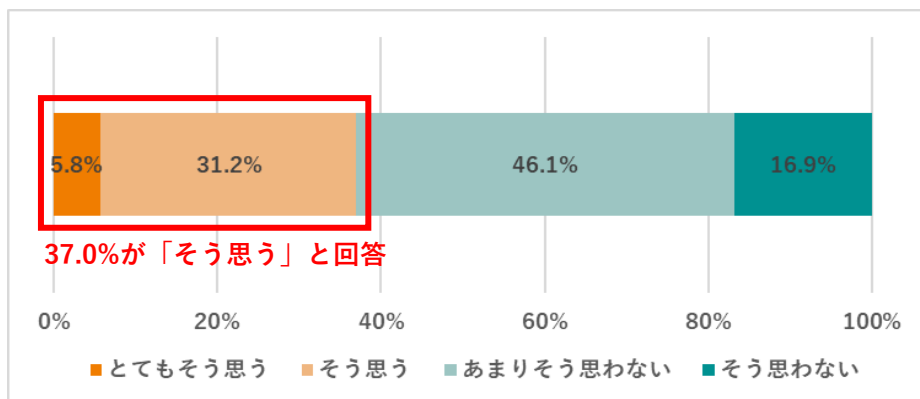
生物多様性を守るための行動の必要性がわからない



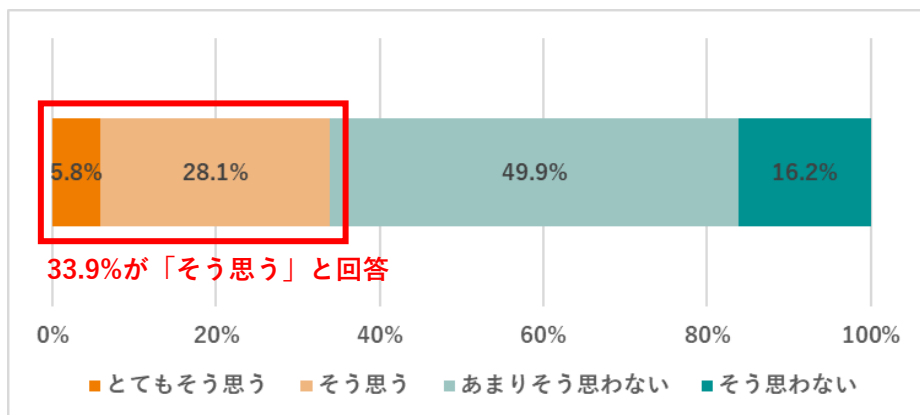
私の生活にとって、生物多様性がなぜ大事なのかわからない



生物多様性の問題に関心がない



生物多様性を守るための行動をしてもメリットがない



また、暮らしの中で生物多様性とのつながりを実感する場面について記述式で聞いたところ、食や自然、報道や教育といった日常生活での接点を中心に実感するという声が多く聞かれました。過去と比較して自然や生きものの減少に気づいたり、物価上昇を機に食べ物が手元に届くまでの過程を考えたりするという回答も見られました。

Q. あなたの日々の暮らし（例えば食、住まい、衣服、移動、趣味など）の中で、生物多様性とのつながりを実感したり、生物多様性の豊かさを感じたりするのはどんな時ですか？（自由記入・回答数 551）

※誤字等、一部文言を変更して記載しています。

食に関する回答

- ・美味しいご飯を食べているとき（石川県 30 代女性）
- ・地元の農産物直売所に行ったり、季節ごとの食材を楽しんだりするとき（新潟県 50 代男性）
- ・免疫力を高めるためにヨーグルトなど腸に関する様々な菌を摂り入れるとき（北海道 40 代女性）
- ・食物が実り、摂取され、排泄され、それがまた他の生物につながっていく循環を考えたとき（奈良県 50 代女性）
- ・自宅の庭に大きなオリーブの木があり、毎年実を採りオリーブオイルを作っています。木の実が結実するのはハチなどの昆虫のお陰ですし、実を食べに来る鳥を見ると「種を遠くに運ぶのかも？」と思い壮大な気分になります（山梨県 30 代女性）

自然に関する回答

- ・山登りやハイキングなどで、大自然の中を歩いているとき（神奈川県 60 代男性）
- ・カマキリがバッタを食べているのを見たとき（東京都 10 代男性）
- ・川沿いの散歩コースで四季に応じた野鳥を見かけたり、野鳥が小魚を獲っていたりするのを見たとき。チョウやセミ、トンボなどの昆虫が水辺や木々の付近を飛び交っているのを見たとき（大阪府 60 代男性）
- ・畑仕事をしていると、動物の糞があった場所の草が周りより生い茂ったり、畑仕事をする上で邪魔な虫や草もあれば逆に活用できるものもあったり、そういうことに触れているとき（広島県 20 代男性）

報道に関する回答

- ・テレビなどで、いろいろな動物や植物の番組を見るとき（東京都 50 代女性）
- ・海の生命の神秘をテレビで見たとき。世の中には知らない生き物が数多く存在していることに感動したり、大きさに圧倒されたりする（大阪府 40 代男性）
- ・私は蚊が大嫌いだけれど、蚊が絶滅すると生態系が乱れて大変なことになるとテレビで知り、嫌いでも存在してもらわないといけないと思った（大阪府 40 代女性）

自然の減少・変化に関する回答

- ・昔はよく見たトンボやチョウなどの虫、カエルなどの両生類、スズメなどの鳥類が、日常生活の中で減ってきているのを感じる。昔は田んぼや畑や森があった場所にマンションや住宅が建って、自然が減っているのが寂しい（千葉県 60 代男性）
- ・長年マリンスポーツをしています。海で見かける生きもので季節を感じられたが、魚やクラゲが昔と違う時期に見られる様になってきている（東京都 60 代男性）
- ・魚の種類が変わってきているように思う。子どもの頃に見かけていた魚がスーパーなどに上がらなくなっている気がする（長野県 50 代女性）
- ・気候変動によって野菜などの食物が不作となり、物価が上昇するとき（福井県 50 代女性）
- ・水産業界に携わっていますが、昨今の海水温上昇などにより、魚の水揚げは昔に比べて大きく減りました。それに伴う魚の価格の上昇も、食生活に大きな影響を及ぼしています（宮城県 40 代男性）

その他

- ・生物の授業を受けたとき（東京都 10 代女性）
- ・医療の発展の由来を考えると（大阪府 60 代男性）

このように、生活導線上のさまざまな場面で生物多様性の豊かさ、つながり、危機感を感じる具体的なシーンが示された一方で、回答者の半数以上は「わからない」「思いつかない」「ない」「難しい」「考えたことがない」などと答え、抽象度の高い概念であることから言語化が難しいと感じている生活者が多いこともうかがえました。

調査結果をふまえて



生物多様性の豊かさは私たちの暮らしの豊かさと密接に関わっているからこそ、生活者も自分ごととして、生物多様性を脅かし続けてきたこれまでの生産や消費のあり方を見つめ直す時が来ていると言えます。あたりまえの日常生活の裏側でどのように恩恵を受けているのか、この先ますます危機が深刻化すると暮らしがどうなるのかを想像し、身近な人たちとの会話を増やすことがその一歩になるのではと考えています。

（WWF ジャパン ブランドコミュニケーション室 増本香織）

▼WWF ジャパンについて

WWF は 100 カ国以上で活動している環境保全団体で、1961 年に設立されました。人と自然が調和して生きられる未来をめざして、失われつつある生物多様性の豊かさの回復や、地球温暖化防止などの活動を行っています。